

## 学校レポート

### バタンバン県アイクブノン郡ピア村ピア小学校

全校数:63名(女子32名)

指導教員:校長:SIEK Seroy氏(男性)、

教頭:POV Chhumpav氏(男性)

2009年に新たな活動としてバタンバン県で実施した音楽教員育成トレーニング。あれから1年後各学校ではどんな授業が実施されているのか、また楽器の保管方法がどうなっているのか調べるため、学校調査に行きました。

バタンバン市内から車で走る事40分。徐々に大きな建物や市場が風景の中から無くなり、360度見渡す限り田んぼが広がった場所に、ピア小学校があります。ピア小学校は木造のとても小さな学校で、教室も2室しかありません。教員数も校長先生、教頭先生の2人だけです。当会が実施した音楽トレーニングには2人の先生が参加しました。カンボジアではなかなかこういった田舎の学校に赴任する教員がいませんが、2人の先生は毎日遠い市内から学校までバイクで通っています。

学校には楽器を保管する所が無いので、学校から200メートル程離れたお寺に保管してあります。1～2年生の子供たちに音楽授業を行っているようですが、リコーダー指導はまだ難しいため現在は歌唱指導をしているようです。校舎は木材とニッパヤシで造られており、風が強い日などは授業をすることが難しく、授業数を十分に確保することができない事が課題となっているようです。

調査に行ったこの日、音楽授業は行われていませんでしたが、周りで遊んでいた子供達が先生に習った歌を披露してくれました。元気よくみんなで大きな声で歌っている子ども達の姿を見て、音楽を多くの学校で普及することの大切さを改めて感じました。



元気に大きな声で歌を披露してくれる子どもたち

## (6)現職教員対象音楽フォローアップ

2009年度に実施したバタンバン県における音楽トレーニングのフォローアップを、2010年9月7日から5日間実施しました。昨年度、10日間60時間の音楽トレーニングを受けた約150名の音楽教員は、音楽の基礎知識や、リコーダーの演奏法、指導法等を5日間の中で再確認していました。バタンバン県でも音楽の基礎知識について50問のテストを実施しました。1日目の平均点は約35点だったのに対し、最終日のテストでは約46点まで上がりました。参加者が5日間のフォローアップに意欲的に取り組んだ事が分かりました。

## (7)地域インストラクター育成トレーニング

予定していた実施回数を変更し、2010年5月に1回(5日間)実施しました。2010年度実施する事ができなかったトレーニングに関しては、2011年度に実施する予定です。

## (8)熊本県海外技術研修員への推薦

本年度も例年通り熊本県へ技術研修員としてカンボジア人教員を推薦しました。今回は、プレアジアヌーク県カンボジア・日本友好サクラ小学校教員、トウイ・チャーター氏が2010年8月から6ヶ月間の研修を無事に終え、2011年2月に帰国しました。日本での半年間、トウイ氏は日本文化、習慣、そして教育システム等多くのことを実際の生活の中で感じ、学んだようです。特に芦北町の小学校での研修では、教員の教育に向ける熱意や、常に目標に向かって仕事に取り組む姿に感銘を受けたようでした。また、日本で生活する中で、沢山の方々に助けられ、温かく受け入れてもらった事は、彼の中で忘れられない思い出となっていると話していました。

現在は、元の小学校に戻り教員生活を送っていますが、日本で学んだことをいかに活かしていくか日々考えているようです。先日の音楽コンテストプレアジアヌーク県予選では、トウイ氏が勤務しているサクラ小学校も出場し、見事プレアジアヌーク県で1位という成績を修めました。今後の活躍を期待したいと思います。

## (10)第7回 音楽コンテスト

音楽教員育成トレーニング参加者及び修了生が音楽授業を行っている学校を対象に、2004年度より年1回音楽コンテストを開催しています。

本年度は、8地域で地区予選を行い、計117校の小中高等学校及び小学校教員養成学校が参加しました。各地区予選から小学校9校、中高等学校9校が2011年5月に開催される音楽コンテスト決勝に参加します。

### 「課題曲」

①2部合唱(1曲を選択)

「サリヤン」、「よい子ども」、

「森のくまさん」

②2部合奏(1曲選択)

「夕やけこやけ」、「幸せなら

手をたたこう」、「もののけ姫」

③歌唱+合奏(1曲選択)

「コトツメイオウイ」、「遺

跡の復興」、「平和の鳩」



毎年実施している音楽コンテストですが、より質の高いものにするために前年度の課題を改善していくよう心がけています。昨年度の反省点としては、各学校の楽器所有数に格差があるために審査結果に大きく響いてしまった事がありました。そのため、2010年度は年度初めに学校調査に行き、楽器数を調べ対象校になるべく同数、同種類の楽器が行き渡るようにしました。また課題曲数に関して、昨年度は指導の負担が大きく、当日までに指導が間に合わなかった学校が多数ありました。アンケート結果からも、多くの音楽教員から4曲は指導するのが困難であるとの意見が寄せられました。よって、課題曲を4曲から3曲へと減らし、3曲目を合奏と歌唱にする等工夫をしました。

### 「今までの成果」

本年度は、合唱、合奏どの分野でも今までになかったような豊かな表現力を持った学校がいくつかありました。聞いている側がその曲の情景を思い浮かべてしまうような、演奏の仕方、歌い方には鳥肌が立ってしまうほどでした。審査員として協力して頂いた山田三千夫氏や青年海外協力隊員からも、今後は「表現」の分野の指導をしていくことで、先生方や子ども達の音楽表現の幅が広がり、歌声や楽器の音色に深みが出るのではないかとアドバイスをいただきました。来年度の活動にぜひ生かしていきたいと思います。



### 「日本の被災者の皆さんのために」

2011年3月11日に日本で起きた未曾有の災害のニュースは、カンボジアの人々の心にも大きな衝撃を与えました。音楽コンテスト実施のために訪れる地域の教育局スタッフ、先生方から多くのメッセージをいただきました。そして、プレイベン県、コンボンチュナン県の音楽コンテスト県予選では、ローカルスタッフ、教育局スタッフの提案で、参加した生徒、教員、来賓全員で犠牲者の方々のために黙祷をしました。

## 参加者の声

Mr. Bun Chhay(プレイベン県ビームロー郡、  
ストーンスラウト小学校教員)

本年度の第7回音楽コンテストに参加する事ができた事を、本当に嬉しく思っています。そして、今回のビームロー郡予選で第1位という成績を収められた事に大変驚いています。音楽を学校で指導する事は、子どもの退学率を減らす効果があると思っています。また、子供たちに音楽だけでなく学校で学ぶ事の楽しさを教えてくれます。

今年の音楽コンテスト参加に向け、月曜日から土曜日まで毎日1～2時間を子どもの指導に当ててきました。音楽コンテストは、私にとって子ども達への音楽指導のモチベーションになっています。

学校で音楽指導をするには、子供たちの親の理解をなかなか得られなかったこともありましたが、なぜなら、家庭によっては家計を支えるために子ども達に家事や仕事を手伝わせているので、音楽のために学校に子どもを行かせることを許してくれないのです。ですから、音楽が学校の正式指導科目になる事はとても大事なことで考えています。JHPが芸術分野でのプロジェクトを、特に音楽コンテストを今後も継続的に実施してくれる事を願っています。

Mariya(女性 5年生)、  
Socheata(女性 6年生)  
(プレイベン県クダイカングール小学校)

私は今年の音楽コンテストに参加する事ができてとても嬉しいです。音楽コンテストに参加するのは今年が初めてです。もしできれば来年度も音楽コンテストに参加したいです。

音楽コンテストは私達の学校の普段の厳しい練習の成果を披露するとても良い機会だと思っています。音楽を勉強するのは、初めはとても大変です。私は、今まで一生懸命に音楽の指導をしてくれた先生に感謝したいです。そして音楽コンテストを開催してくれたり、私達の学校に楽器を支援してくれたりしている日本の支援者の皆さんとJHPの皆さんに感謝したいと思います。